



ぐんぐん すくすく！ 相生っ子！

住所 相生市緑ヶ丘 4 丁目 5-5

電話 0791-23-5070 FAX 0791-22-7211

E-mail ikusei-aioi@bz03.plala.or.jp

東井義雄 いのちの言葉 <8月> ～『東井義雄一日一言』(致知出版社)より～

選択、決断

人生は、何を捨て何を得るかという岐路の連続であり、選択、決断の連続である。

「シイ」と「タイ」

大小の汚職事件と、日本の青少年の問題とは、一見、別問題のように見える。

しかし、「地位がほしい」「名誉がほしい」「権力がほしい」「お金がほしい」・・・というようにして、「シイの木」に「人間」が負けてしまい、歯止めをかける力さえ失ってしまっている。

そのことと、「女の子と楽しみたい」「男の子と楽しみたい」「遊びたい」「楽をしたい」「いつまでも寝ていたい」「漫画ばかり読んでいたい」「イイカッコがしたい」「難しいことは避けて通りたい」という「タイ」に青少年が負けてしまい、引き回されている問題は、別の問題ではない。

代わる者あるいとなし

「自ら之に当たる。代わる者あることなし」(大無量寿経)
血のつながった親でさえ、子どもの荷を背負ってやることはできない。世の中がどのようなふうとも、人生は昔も今も決してあまったるいものではない。

人生を一日にたとえる

人生七十二年を一日二十四時間に当てはめてみる。一日の一時間は、人生の三年間にあたる。つまり、三で自分の年齢を割ってみるといい。十二歳の君たちは、夜明け前の四時だ。人生はこれから始まるのだ。
私ははや二十二時を過ぎていく。うかうか過ごすことは許されない。

負けてはだめ

わたしたちの心の中にはいろいろな美しい宝物がしまっている。でも、それを掘り出させないようにする悪魔もたくさん住んでいる。それらがわたしたちを怠けさせようとしたりがんばりを忘れさせようとしたりするでも、それに負けてはだめ

世界でただ一人の責任者

亀は兎になれない。しかし、そのつもりになって努力すれば日本一の亀にはなれる。わたしも、わたし以外の誰にもなることはできない。日本では一人のわたしをつくる以外にない。願ひながら、ここまできた君は、君をりっぱにする世界でただ一人の責任者だ。

【とおい・よしお】「いのちの教育」の探求に尽くした日本の教育者。兵庫県豊岡市但東町佐々木に生まれる。小学校教師として村を育てる教育を実践。ベストロッチ賞、平和文化賞、小砂丘忠義賞、文部省教育功労賞受賞。

◆7月にも市内小中学校6校で「ケータイ・スマホ教室」を実施しました。



7/5 双葉中



7/5 那波中



7/5 矢野川中

※7月12日実施分は裏面で紹介しています。



7/12 相生小



7/12 青葉台小



7/12 那波小

※今回の授業から新しい試みとして、フェイクニュースの記事から、怪しいと思われる個所を、児童一人ひとりがタブレットを使い、検索し、確認しました。積極的に自分からいろいろ調べてみようという意欲を持った児童もいました。

「友達」

「中学2年の息子が登校拒否をやめたので、おもわず筆を取りました。」
(大阪府・40代主婦)

真悟へ

中学1年の2学期の終わりから、あんたが登校拒否になって約1年が過ぎて、やっとやね。やっと、学校に行く気になってくれて、お母さんは本当に嬉しいです。

でもね、お母さんは、面と向かつてはなかなか言えなかったけど、「真悟がしたいようにしたらええわ」と思ってたんで。

お父さんもそうや。口では「早よ学校いかなんと、人生、取り返しつかんぞー」なんて、たまに怒鳴ってたものの、私には、「あいつの好きなようにさしたらええわ」って言うてたんよ。

私たち二人は、登校拒否になろうと、引きこもりになろうと、あんたが「優しい、真つすぐな人間や」って、ちゃんと知っていたから、そんなにウロたえてへんかったよ。心配せんでええで。

感じたことないやろけど、実は私ら、あんたのことを男として認めてるねん。ほら、小学校の時、あんたのクラスには家庭が複雑な友達が結構いて、真悟はいつも、その子たちの味方だったもんな。

遠足にお弁当を持ってこれなかった相崎くんが、お昼にお菓子をションボリして食べてたら、あんた、「うまい棒のコーンポタージュ味が死ぬほど好きやから」って言うて、相崎くんのうまい棒半分と、自分の弁当半分と、取り換えっこしたんやろ。ボロボロの服を着てるだけで「バイ

キン」ってひどい陰口を言われていた曾我部くん。上級生に「おいバイキン、落としたサイフを拾ってネコババしたやろ」と決めつけられて、泣いていた曾我部くんの代わりに、あんた、怒ったそうやね。
アカンタレのあんたが、もちろんベソかいて震えながらやけど、怖い6年生に「こいつ、そんなこと絶対せえへん！」って、食ってかかったそうやんか。頭を叩かれても、曾我部くんの手を離さへんかったそうやんか。

そんなあんたが、中学生になって、先生や周りの環境に恵まれずに、苦しんでたんやな。学校好きの真悟が、学校に行く気にならんなんて、よっぽどのことやもん、責めへん責めへん。

あんたがまた学校に行きだして、一番喜んでるのは、お母さんお父さんじゃないよ。あの子らやんか。体がムチャクチャ大きくなって運動部に入って、たくましくなった相崎くと曾我部くん！
二人とも、あんたが引きこもっている間、よう、家に遊びに来てくれたよなあ。

真悟、こんなこと言うたら、怒られるかもしれないけど、あんな、ホンマはな、学校なんてどうでもいいねん。でも、友達の手だけは離さんようにしてな。これからも、真悟が何をやらかそうと、お母さんとお父さんは、アカンタレのあんたのことをずっと、信じています。

＜橋本昌人編『なみだのラブレター～あの人に、あの子に「ありがとう」～』（ヨシモトブックス）より＞

■臨床心理士による『相生っ子悩み相談』（要予約）

8月23日(金)と9月13日(金)と9月27日(金) 午後1時～4時
(※毎月第2、第4金曜日)

■センター職員による教育相談もご利用ください。

○来所相談 毎週 火曜日～金曜日 13:00～16:00

○電話相談 毎週 月曜日～金曜日 10:00～16:00

(ただし、祝日は休み)

※一人で抱えこまずお気軽にご相談ください。

※問題に立ち向かうための元気づけ、勇気づけができればと思っています。

友達に言えないこと、
両親に言えないこと、
先生にも言えないこと、
ひとりで悩んでいないで、
気軽に電話してください。

小・中・高校生

保護者・ご家族の皆さんもどうぞ。